

社会福祉法人 猪位金福祉会 暖家の丘訪問看護ステーション 下口 真由子さん

在宅・慢性期領域パッケージ研修修了



★受講を決めたきっかけ★

癌によりボディイメージが変化したり、失声や摂食困難になったりと、病気の影響で生活が一変する方のこれからの生活を考えた看護をしたいと思うようになり、学生時代から憧れていた訪問看護に移りました。地域住民の「最後まで家にいたい。でも家族に迷惑はかけたくない」思いを叶えるために、まずは自分の知識や技術を向上したいと考えました。認定看護師を目指したいと思っていましたが、家庭と仕事と研修の両立の困難から遠退いていたところ、兼ねてから情報収集していた特定行為研修制度に関して、近隣に指定研修機関ができたことを知り、受講を決意しました。

★働きながら受講したこと

(e-learning視聴や集合研修等)

e-learningは時間を問わず、自分の時間で受講できる方法なので、仕事をしながら受講するのに大変助かりました。逆に、時間の使い方(自己管理)をしっかり行わないといけない事や集中力を保つ事が大変でした。職場での視聴許可を得ていましたが、実際は勤務中に視聴する事に対し、同僚に気を遣い、殆どがプライベート時間での視聴となりましたので、夜は睡魔との闘いでした笑。

★臨地実習で経験したこと

在宅(訪問看護)の勤務の方が病院勤務より長くなったので、病院での実習で普段とは違う「今」の現場を見る事ができました。ただ、COVID-19や患者様の体調などで受診が延期・中止になって、実習予定が変更になる事が多く、精神面のコントロール(実技を伴う行為の実践は緊張感が半端ない)と勤務調整が大変でした。指導医とのディスカッションで、医師がどのような視点で患者様を診て、医療処置をしているのかを学ぶ事ができたことがとても良かったです。

★研修修了後の看護実践(変化したことなど)

フィジカルアセスメントなどの習得により、根拠を持って利用者様(患者様)の状態を見るための知識や技術が深まりました。また、看護の視点とは違う医師の視点での治療・処置判断や、患者様の病態の変化を踏まえた上での治療展開を考えて経過を追っていく事などを学び、自分の思考回路が受講前とは違い、成長したと感じます。1年間、研修を頑張った自分の看護実践に今までより自信が持てるようになりました。

★これから研修受講を考えている方へ

特定行為研修を修了し1年が経ちましたが、残念ながらまだ実践ができていません。訪問看護で特定行為を実践するには、色々なハードルがあると感じています。特に、利用者様お一人おひとりの主治医が異なるので、それぞれの医師と利用者様・ご家族に、特定行為を周知し、理解・同意を得ることの大変さを日々感じています。しかし、特定行為を修了したからこそ、訪問看護(在宅看護)での特定行為は重要になるとの想いも強くなりました。

訪問看護師で特定行為研修を修了した人はまだまだ少ないので、まずは、地域の特定看護師仲間を増やしたいです。そして、事業所の枠を超えてマニュアル作りや医療機関・地域への周知活動を一緒に行い、在宅での特定行為実践を広めて「最後まで家にいたい」を叶えていきたいと考えています。